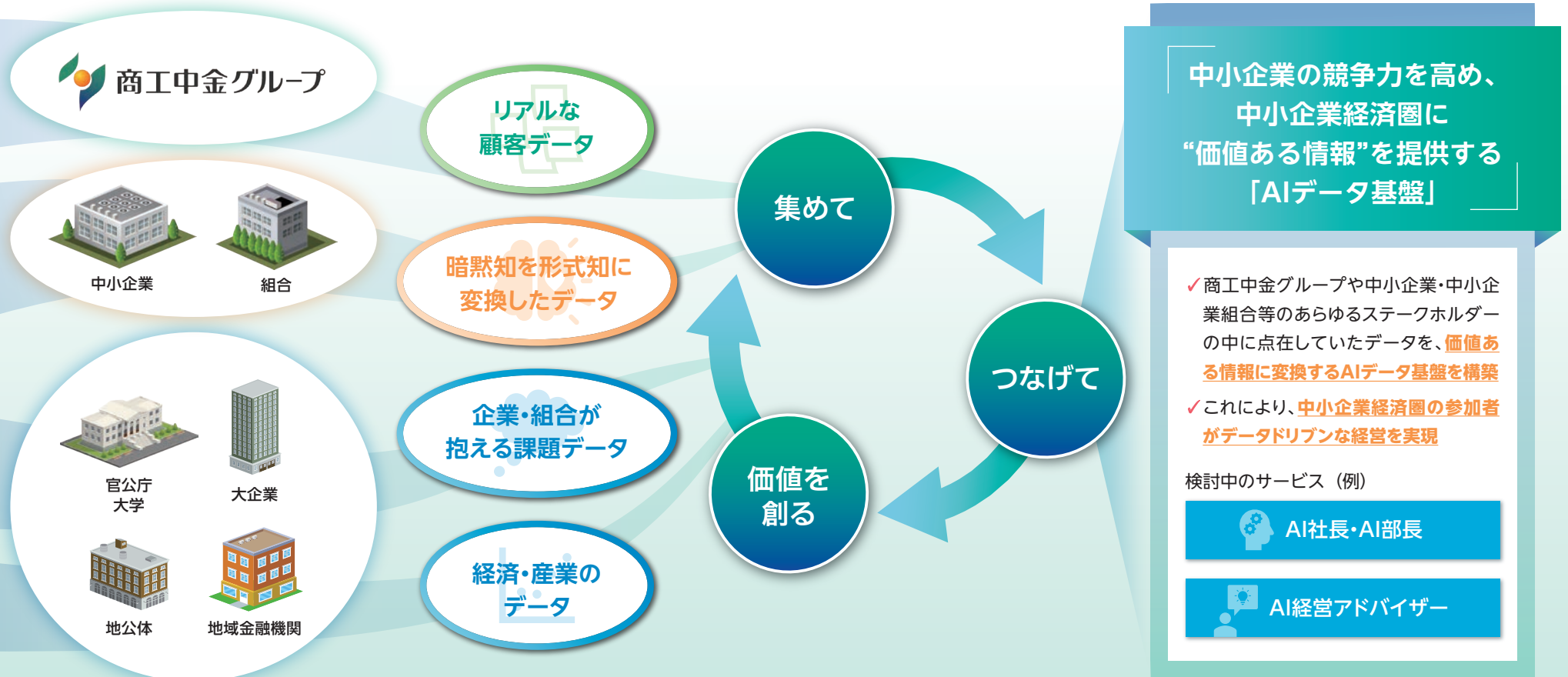


DXから
AXへ

中小企業は、デジタル活用の遅れや人財不足などにより、経営判断の高度化に課題を抱えています。商工中金グループは、中小企業経済圏の確立・活性化を目指し、AIデータ基盤“JIPS (Japan Intelligence Platform / with Shokochukin)”の構築を進めます。

まずはデータ基盤を整備し、そこに商工中金グループがリアル・デジタルの両面で蓄積してきたデータ・ナレッジを集約・連携することで、中小企業経済圏の参加者に価値ある情報を提供します。これにより「DXからAXへ」の変革を実現し、中小企業意思決定の高度化と中小企業経済圏全体の価値創造を支えていきます。



連携事例

株式会社松尾研究所とのアライアンス締結

日本の中小企業は、人財不足、生産性の停滞、デジタル活用の遅れなど、構造的課題に直面しています。

商工中金は、これらの課題解決に向け、JIPSを中心とした“中小企業データ共益圏”を実現すべく、先端AI研究の社会実装を推進する株式会社松尾研究所と基本合意を締結しました。

同社との連携により、商工中金グループや中小企業・中小企業組合等のステークホルダーに関するデータを、価値ある情報に変換するAIデータ基盤の構築を目指します。